2021年度日本助産学会研究助成金(若手研究)研究報告書

産後早期における育児・日常生活行動の支障感が女性の心理的健康に与える影響

山田　安希子

所属:名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻　博士後期課程

共同研究者
高橋由紀（准教授）名古屋大学大学院総合保健学専攻　包括ケアサイエンス領域　看護科学　次世代育成看護学

Ⅰ．はじめに

妊娠・出産は、女性にとって人生における重要なライフイベントの1つであるが、近年の社会・医療背景により、産後の身体部痛や身体回復に問題を抱える母親、育児不安、子育てのしにくさを訴える母親、抑うつ傾向を示す母親が増加している（市川, 2017; 柳瀬他, 2021）。これまで育児不安や産後うつに関連する先行研究は多数みられるが（村井他, 2014; 島田他, 2006）、産後早期に臨床助産師の予防的介入が可能である分娩に起因する身体部痛と育児・日常生活行動の支障感に焦点をあて、産後女性の心理への影響を調査した研究はほとんどない。

経腟分娩後女性の多くが経験する会陰部痛とそれに伴う日常生活動作の支障感は、時間経過とともに軽減することは既に報告されている（Macarthur, et al. 2004; Yamada, et al. 2024）。しかし、育児行動の支障と母子愛着の関連（Lai, et al. 2015）といった女性の心理面との関連も報告されており、時間経過とともに軽減していく支障を見過ごすことはできない。また、近年、ハイリスク妊産婦・新生児の増加に伴い、分娩時の医療介入の割合は急速に増加し（厚生労働省, 2021）、その結果、日常生活動作の支障を有する女性の割合や程度は増大している可能性がある(竹内他, 2013)。

本研究では、女性の心理的健康として、母親になる過程に影響を及ぼす、「母親役割の自信」および「母親であることの満足感」に着目した（前原他, 2005）。これらに関連する要因は子育て期にある女性を取り巻く社会的・心理的要因、および疲労が要因として明らかにされているが（前原他, 2015; 前原他, 2016）、臨床助産師が支援可能な分娩後の母親に生じる日常生活動作の支障が、どのように産後1か月までの母親の自信構築や満足感に関連しているかを検討した研究は国内外を通じてほとんどない。

したがって、本研究の目的は、産後早期から産後1か月までの縦断調査により、経腟分娩後女性の日常生活への支障、母親役割の自信、母親であることの満足感の経時的変化と、日常生活への支障と母親役割の自信、母親であることの満足感の関連を明らかにすることである。

Ⅱ．方法

１．研究デザイン

無記名自記式質問紙を用いた前向きな縦断調査による量的記述研究

２．対象者

1) 選択基準

妊娠36週前後（リクルート時）；単胎児を妊娠し、定期的に妊婦健診を受診している母子ともに妊娠経過に異常がない20歳以上の日本人妊婦

分娩後；正期産で出産し、母子ともに分娩・産褥経過に異常がない褥婦

2) 除外基準；

妊娠36週前後（リクルート時）；精神疾患の既往、重篤な疾患、妊娠合併症がある妊婦

分娩後；早期産・過期産、緊急帝王切開、児の生後1分・5分値のアプガースコアが8点

未満、分娩・産後の経過で母子分離となった褥婦

3．調査方法

1） 対象者の選定手順

研究協力施設に所属する助産師が、妊娠36週前後の妊婦健診のために外来受診した対象選択基準を満たす妊婦を抽出し、本研究を紹介し、調査者の詳細説明を聞くことに同意した妊婦に、調査者が文書と口頭で説明し、書面で同意が得られた妊婦を候補者とした。候補者が出産後、分娩後の対象選択基準を満たす候補者を研究対象者とした。

2） データ収集方法

産後1日目に看護管理者から病室を訪ねる許可が得られた研究対象者に対して、産後1日目に訪室し、口頭で研究協力の同意について再確認した後、質問紙と切手を貼付した封筒を配布した。産後5日目、産後健診時（産後1か月）に、各質問紙に切手を貼付した封筒をつけて配布し、記載後提出してもらった。質問紙の回収は、ナースステーションに設置した回収箱または郵送のいずれかを選択できるようにした。対象者の属性、産科学的データ、新生児データは、診療録、助産録から収集した。

4．調査内容

1) 属性、産科学的データ、新生児データ
2) 日常生活への支障を示す尺度（竹内, 2014）；4下位尺度、24項目
3) 母親役割の自信尺度(前原他, 2005)；4下位尺度、20項目
4) 母親であることの満足感尺度(前原他, 2005)；2下位尺度、9項目度

※ 2）については、産後1日目、5日目、1か月の質問紙で回答を求めた
3）4）については、産後5日目、1か月の質問紙で回答を求めた

5．統計解析

対象者の属性、産科学的要因、新生児要因は記述統計を用いた。連続変数は、平均値±標準偏差（最小値―最大値）で示した。質的変数は、人数（割合）で示した。

日常生活への支障と母親役割の自信、母親であることの満足感の関連は、ピアソンの相関係数を用いた。

有意水準は5%未満の両側検定とし、統計ソフトSPSS ver. 27.0 for Windowsを用いて分析した。

6．倫理的配慮

本研究は名古屋大学大学院医学系研究科生命倫理審査委員会の承認後（承認番号；17-166-5、19-133-4）、研究協力施設の倫理委員会または施設長の許可を得て実施した。

Ⅲ．結果

東海地方にある分娩を取り扱う産科医療施設５施設において、研究参加の同意を得た参加者のうち除外基準に該当した対象を除外した281名のうち、産後1日目、5日目、1か月の全て

の質問紙が回収でき、必要なすべての調査項目が入手できた130名（初産婦75名、経産婦55名）を分析対象とした。

1. 対象者の背景（表1）

母親の平均年齢は初産婦30.8±4.4歳、経産婦33.7±4.0歳であった。新生児の平均出生時体重は初産婦2972.2±307.1g、経産婦3131.8±397.1gであった。分娩時の会陰損傷について、会陰に損傷がなかったものは初産婦1名(1.3%)、経産婦7名(12.7%)であった。会陰切開を施行したものは初産婦61名(81.3%)、経産婦15名(27.3%)であった。

2. 日常生活への支障、母親役割の自信、母親であることの満足感の経時的変化（表2）

初産婦、経産婦ともに、日常生活への支障を示す尺度の下位尺度である「座位への支障」「行動意欲の減退」「動静への支障」「排泄と清潔への支障」、合計得点である「日常生活への支障」の平均値は、産後1日目から5日目、5日目から1か月にかけて減少した。また、産後1か月の時点の平均値は、最小値に近いものであり、会陰部痛や日常生活への支障がほとんどなくなっていた。また、初産婦、経産婦ともに、「母親役割の自信」「母親であることの満足感」の平均値は、産後5日目から1か月にかけて上昇した。

3. 日常生活への支障と母親役割の自信、母親であることの満足感の関連（表3）

初産婦において、産後1か月の日常生活への支障と母親役割の自信は、日常生活への支障が少ないと母親役割の自信が高い傾向を示した（r=-0.22, *P*=0.06）。日常生活への支障と母親であることの満足感は、産後5日目、1か月ともに、有意な負の相関を認めた（5日目 r=-0.23, *P*=.049; 1か月 r=-0.24, *P*=0.04）。

経産婦において、産後5日目の日常生活への支障と母親役割の自信は、日常生活への支障が少ないと母親役割の自信が高い傾向を示した（r=-0.26, *P*=0.053）。日常生活への支障と母親であることの満足感は、産後5日目、1か月ともに、有意な相関は認めなかった（5日目 r=-0.10, *P*=0.49; 1か月 r=-0.09, *P*=0.52）。

Ⅳ. 考察

1. 日常生活への支障、母親役割の自信、母親であることの満足感の経時的変化

日常生活への支障は、産後1日目から5日目にかけて減少し、産後5日目から1か月にかけてさらに減少した。これは、先行研究と同様の結果であった（Macarthur, et al. 2004; 島田, 2003; 2005）。また、産後1か月の時点では、日常生活への支障がほとんどなくなることも、先行研究と同様の傾向を示していた（Macarthur, et al. 2004）。

母親役割の自信、母親であることの満足感はともに、産後5日目から1か月にかけて上昇した。母親役割の自信の変化は、尺度開発者の前原他（2005）が報告した先行研究と同様の結果であった。母親であることの満足感の変化について、前原他（2005）は、退院時と1か月時で有意な差は認められなかったと報告している。本研究対象者は、産後5日目から1か月にかけて平均値は上昇したが、先行研究の平均値と見比べると大差はなく、概ね同様の結果であったと考える。

2. 日常生活への支障と母親役割の自信、母親であることの満足感の関連

初産婦は、産後1か月において、日常生活への支障が少ないと母親役割の自信が高い傾向を示し、産後5日目、1か月において、日常生活への支障が少ないと母親であることの満足感が高いという関連を示した。経産婦は、産後5日目において、日常生活への支障が少ないと母親役割の自信が高い傾向を示した。本研究では、母親役割の自信や母親であることの満足感に、分娩時や産後の入院中に助産師が介入可能な日常生活への支障が関連している可能性を示した。つまり、日常生活への支障を軽減することが、母親役割の自信や母親であることの満足感を高めることに関連し、産後の母親が心身ともに子育てのしにくさを感じるのを予防する可能性を示唆した。

本研究で用いた日常生活への支障を測定する尺度（竹内, 2014）は、4つの下位尺度があり、「座位への支障」「動静への支障」といった育児や日常生活を行う際に必要な単純動作の支障、「排泄と清潔への支障」といった女性の日常生活に関するもの、「行動意欲の減退」といった女性の育児や日常生活の意欲に関するものが含まれている。

育児には、立つ、座るといった単純動作だけではなく、子どもを抱きあげて授乳体制を整えるといった複合動作が必要であり、単純動作に支障があることが、母親役割の自信を構成する下位尺度でもある「要求への応答」に特に影響を与えた可能性がある。産後2、3日目の育児動作の支障が強いと母子愛着が弱くなるという報告(Lai, et al. 2015)もあり、本研究結果を支持するものである。

排泄や清潔は、マズローの欲求5段階仮説(自己実現理論)の一段階目の生理的欲求に該当し(Maslow, 1943)、満たされるべき人間の基本的欲求である。くわえて、生殖器周辺の不快感や違和感、排泄に関することは羞恥心から他者に相談しにくいという特徴がある。先行研究においても、分娩後早期(3～5日)の尿失禁の有症率が30.8%であることや、尿失禁は、抑うつや自尊心の低下につながる心理的問題を引き起こす可能性が示唆されている(Siahkal, et al. 2020)。排泄や清潔に関する支障を抱えながら産後の入院期間を過ごす女性も多いことが推測されるが、生理的欲求が満たされない場合、母親役割の自信や母親であることの満足感を高めていくことは困難になり得る可能性が考えられた。

3. 研究の限界

本研究はローリスクで産後の経過が母子ともに健康であった日本人のみを対象としたため、何らかの合併症を持つ母親や欧米諸国の女性には適用できない可能性がある。さらに、COVID-19により、当初予定した対象者数をリクルートすることができなかった。そのため、対象者が少なく、日常生活への支障と母親役割の自信、母親であることの満足感の関連をより詳細に分析し、検討できなかったことから、産後女性のQOL向上の観点からもさらなる検討が必要である。

Ⅴ．まとめ

1. 日常生活への支障は、産後1日目から5日目にかけて減少し、産後5日目から1か月にかけてさらに減少した
2. 母親役割の自信、母親であることの満足感は、産後5日目から1か月にかけて上昇した
3. 初産婦は、産後1か月において、日常生活への支障が少ないと母親役割の自信が高い傾向

を示し、産後5日目、1か月において、日常生活への支障が少ないと母親であることの満足感が高いという関連を示した

4. 経産婦は、産後5日目において、日常生活への支障が少ないと母親役割の自信が高い傾向を示した

Ⅵ. その他（謝辞など）

本研究にご協力いただきました対象者のお母様、また、調査にご協力いただきました全施設のスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

本研究は、名古屋大学大学院医学系研究科に提出した博士論文の一部を加筆修正したものである。

Ⅶ. 引用文献

市川 香織 (2017). 産後早期に助産師の産後ケアを受けた女性の経験. 平成29年度武蔵野大学大学院看護学研究科 研究論文(博士論文). 武蔵野大学学術機関リポジトリ. http://id.nii.ac.jp/1419/00000839/ (アクセス 2023.07.27)

厚生労働省 (2021). 令和3年度出生に関する統計の概況 出生動向の多面的分析. https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/syussyo07/dl/02.pdf (アクセス 2023.07.27)

Lai, Y. L., Hung, C. H., Stocker, J., Chan, T. F., Liu, Y. (2015). Postpartum fatigue, baby-care activities, and maternal-infant attachment of vaginal and cesarean births following rooming-in. Applied nursing research, 28(2), 116-120. https://doi: 10.1016/j.apnr.2014.08.002

Macarthur, A. J., & Macarthur, C. (2004). Incidence, severity, and determinants of perineal pain after vaginal delivery: A prospective cohort study. American Journal of Obstetrics and Gynecology, 191(4), 1199-1204. https://doi.org/10.1016/j.ajog.2004.02.064

前原 邦江, 森 恵美 (2005). 産褥期における母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度の開発　信頼性・妥当性の検討. 千葉大学看護学部紀要, (27), 9-18.

前原 邦江, 森 恵美, 土屋 雅子, 坂上 明子, 岩田 裕子, 小澤 治美, 青木 恭子, 森田 亜希子, 前川 智子, 望月 良美 (2015). 出産施設を退院後から産後1ヵ月までに母親役割の自信が高まる要因 高年初産婦と34歳以下初産婦を比較して. 母性衛生, 56(2), 264-272.

前原 邦江, 森 恵美, 岩田 裕子, 坂上 明子, 玉腰 浩司 (2016). 初産婦の産後1ヵ月における母親役割満足感に関連する要因. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, (38), 21-29.

Maslow, A. H. (1943). A theory of human motivation. Psychological Review, 50, 370-396. https://doi.org/10.1037/h0054346

村井 智郁子, 林 知里, 横山 美江 (2014). 母親の育児に関する相談事と背景要因　3ヵ月児健康診査のデータ分析から. 日本公衆衛生看護学会誌, 3(1), 2-10.

島田 真理恵 (2005). 分娩時の会陰損傷による後遺症の経過に関する研究. 母性衛生, 45(4), 454-463.

島田 真理恵 (2003). 分娩時の会陰損傷による後遺症の比較に関する研究. 日本助産学会誌, 17(2), 6-15.

島田 三恵子, 杉本 充弘, 縣 俊彦, 新田 紀枝, 関 和男, 大橋 一友, 村上 睦子, 中根 直子, 神谷 整子, 戸田 律子, 盛山 幸子 (2006). 産後1ヵ月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査　「健やか親子21」5年後の初経産別、職業の有無による比較検討. 小児保健研究, 65(6), 752-762.

Siahkal, S. F., Iravani, M., Mohaghegh, Z., Sharifipour, F., & Zahedian, M. (2020). Maternal, obstetrical and neonatal risk factors' impact on female urinary incontinence: a systematic review. International Urogynecology Journal, 31(11), 2205-2224. https://doi.org/10.1007/s00192-020-04442-x

高岡 智子 (2013). 産後尿失禁の有症率と分娩時要因の関連性の検討　自然分娩と医療介入のある分娩との比較. 日本助産学会誌, 27(1), 29-39.

竹内 翔子 (2014). 産褥早期の会陰部痛による日常生活への支障と病院・助産所におけるケア. 母性衛生, 55(2), 342-349.

竹内 翔子, 柳井 晴夫 (2013). 出産後の会陰部痛の関連因子と日常生活への影響. 日本看護科学会誌, 33(4), 24-32.

Yamada, A., Takahashi, Y., Hirose, M., Usami, Y., Maruya, S., & Tamakoshi, K. (2024). Factors associated with perineal pain on the first postnatal day after vaginal delivery: A cross-sectional study of primiparous women. Nagoya Journal of Medical Science, 86(1). (in press)

柳瀬 千恵子, 山田 安希子, 高橋 由紀 (2021). 分娩を取り扱う助産所助産師がとらえる産後ケアと助産所の存在役割. 日本助産学会誌, 35(1), 88-98.

Ⅷ．表

表1．対象者の背景

	初産婦(n=75)			経産婦(n=55)		
	平均値 ± 標準偏差	(最小値 ― 最大値)		平均値 ± 標準偏差	(最小値 ― 最大値)	
母親の年齢(歳)	30.8 ± 4.4	(20 ― 40)		33.7 ± 4.0	(25 ― 44)	
在胎週数(日)	39w4d ± 7.7	(37w0d ― 41w5d)		39w4d ± 7.4	(37w1d ― 41w3d)	
分娩所要時間(時)	13.3 ± 11.2	(0.8 ― 54.0)		5.3 ± 3.5	(1.0 ― 17.5)	
分娩時出血量(ml)	375.7 ± 306.5	(50 ― 1470)		348.1 ± 227.9	(25 ― 1055)	
出生時児体重(g)	2972.2 ± 307.1	(2222 ― 3854)		3131.8 ± 397.1	(2208 ― 4022)	
	n	(%)		n	(%)	
非妊時BMI3群						
BMI18.5未満	15	(21.1)		2	(3.9)	
BMI18.5以上25未満	49	(69)		46	(90.2)	
BMI25以上	7	(9.9)		3	(5.9)	
妊娠中の体重増加3群						
推奨範囲未満	16	(22.5)		9	(17.6)	
推奨範囲内	37	(52.1)		28	(54.9)	
推奨範囲以上	18	(25.4)		14	(27.5)	
分娩様式2群						
自然分娩	58	(77.3)		53	(96.4)	
器械分娩	17	(22.7)		2	(3.6)	
無痛分娩						
あり	7	(9.3)		7	(12.7)	
なし	68	(90.7)		48	(87.3)	
陣痛薬剤使用						
自然陣痛	41	(54.7)		43	(78.2)	
陣痛誘発・促進剤使用	34	(45.3)		12	(21.8)	
会陰裂傷の程度						
会陰裂傷なし	1	(1.3)		7	(12.7)	
Ⅰ度	2	(2.7)		12	(21.8)	
Ⅱ度	69	(92)		36	(65.5)	
Ⅲ度	3	(4)		0	(0)	
Ⅳ度	0	(0)		0	(0)	
会陰切開の有無						
あり	61	(81.3)		15	(27.3)	
なし	14	(18.7)		40	(72.7)	
産後1日目；鎮痛剤内服						
あり	65	(86.7)		43	(79.6)	
なし	10	(13.3)		11	(20.4)	
産後5日目；鎮痛剤内服						
あり	38	(50.7)		28	(50.9)	
なし	37	(49.3)		27	(49.1)	
産後1か月；鎮痛剤内服						
あり	2	(2.7)		1	(1.8)	
なし	73	(97.3)		54	(98.2)	
産後1か月；栄養方法						
母乳	27	(41.5)		26	(60.5)	
混合＋人工乳	38	(58.5)		17	(39.5)	
産後1か月；EPDS2群						
9点未満	58	(87.9)		42	(95.5)	
9点以上	8	(12.1)		2	(4.5)	

表2. 日常生活への支障、母親役割の自信、母親であることの満足感の経時的変化

	初産婦(n=75)			経産婦(n=55)		
	平均値 ± 標準偏差	(最小値	ー 最大値)	平均値 ± 標準偏差	(最小値	ー 最大値)
座位への支障						
産後1日目	18.1 ± 4.3	(6	ー 24)	14.2 ± 4.9	(6	ー 24)
産後5日目	13.1 ± 4.9	(6	ー 24)	10.5 ± 4.8	(6	ー 24)
産後1か月	6.6 ± 1.9	(6	ー 16)	6.6 ± 2.2	(6	ー 18)
行動意欲の減退						
産後1日目	12.6 ± 4.5	(6	ー 23)	10.3 ± 3.6	(6	ー 22)
産後5日目	9.9 ± 4.0	(6	ー 24)	8.6 ± 3.0	(6	ー 16)
産後1か月	6.8 ± 1.7	(6	ー 13)	6.7 ± 1.7	(6	ー 14)
動静への支障						
産後1日目	18.9 ± 4.1	(8	ー 24)	16.1 ± 4.9	(6	ー 24)
産後5日目	13.2 ± 5.4	(6	ー 24)	11.3 ± 4.9	(6	ー 23)
産後1か月	6.8 ± 1.9	(6	ー 15)	6.7 ± 2.4	(6	ー 18)
排泄と清潔への支障						
産後1日目	18.5 ± 3.9	(8	ー 24)	16.0 ± 4.4	(6	ー 24)
産後5日目	14.8 ± 4.7	(6	ー 24)	12.7 ± 4.7	(6	ー 24)
産後1か月	7.8 ± 3.0	(6	ー 21)	7.3 ± 3.0	(6	ー 18)
日常生活への支障(合計)						
産後1日目	68.1 ± 13.8	(30	ー 93)	56.7 ± 15.1	(25	ー 82)
産後5日目	51.0 ± 16.3	(24	ー 94)	43.1 ± 15.6	(24	ー 78)
産後1か月	28.1 ± 7.3	(24	ー 65)	27.4 ± 8.6	(24	ー 66)
母親役割の自信						
産後5日目	43.9 ± 9.5	(25	ー 68)	56.7 ± 9.4	(33	ー 80)
産後1か月	53.0 ± 8.5	(34	ー 71)	63.2 ± 9.7	(42	ー 79)
母親であることの満足感						
産後5日目	28.9 ± 4.3	(18	ー 36)	30.4 ± 3.5	(21	ー 36)
産後1か月	30.1 ± 4.2	(17	ー 36)	31.4 ± 3.5	(24	ー 36)

表3. 日常生活への支障と母親役割の自信、母親であることの満足感の関連

	初産婦(n=75)		経産婦(n=55)	
	日常生活への支障		日常生活への支障	
	相関係数	*P*値	相関係数	*P*値
産後5日目				
母親役割の自信	0.004	0.97	-0.26	0.053
母親であることの満足感	-0.23	0.049	-0.10	0.49
産後1か月				
母親役割の自信	-0.22	0.06	-0.08	0.56
母親であることの満足感	-0.24	0.04	-0.09	0.52

ピアソンの相関係数, $P<0.05$